

特集 栗山高校野球部

6/9の現実

まだ雪が多く残る3月の半ば、汗を流している栗山高校野球部員の姿があった。
その数6人。
昨年の秋季大会には、部員が足りなく、出場することさえ叶わなかった。4月に新入部員が入らなければ、春・夏と大会に出場することができず3年生は引退となってしまふ。
そんな中でも、彼らはしっかりと目標を持ち、練習に励んでいた。

6人になった 伝統の栗高野球部

栗山高校野球部は、かつては強豪校であった。昭和46年の夏には、北海道大会に出場し、準優勝を成し遂げた。甲子園大会出場まであと一歩というところまで登り詰めていた。

それから41年たったいま、伝統ある野球部が苦境に立たされている。

昨年、夏の大会で当時の3年生が引退してしまうと1、2年生の6人だけが残された。野球は最低でも9人いなければならぬ。良い成績を残すどころか、試合をすることもできなくなってしまった。

野球部なのに野球ができない。現実にはぶつかった部員たちは何を目標にして良いのかわからなくなった。辞めたくなるほど悔しかった。ただ、野球が好きなき気持ちは全く変わることはなかった。

夢や目標を守って あげたい

子どもたちに罪はない。子どもたちの目標や夢を守って

あげたいという思いがそこに表れた。

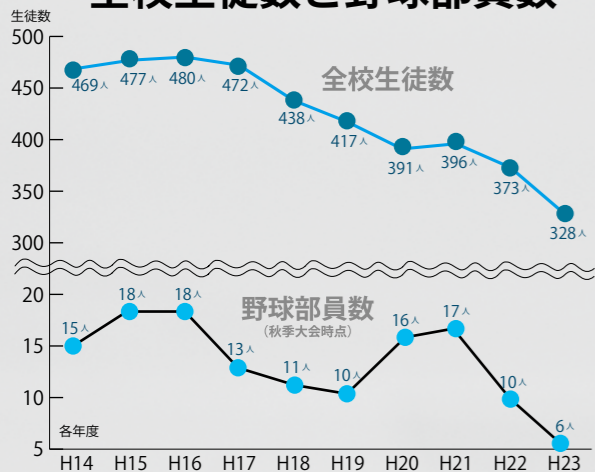
監督の佐藤裕教諭(現部長)が、管内で同じ境遇に置かれていた砂川高校(6人)、滝川高校(5人)に『一緒にチームを作ろう』と声をかけた。7月には17人の合同チームも出来上がり、高校野球連盟にも届け出た。

ただし、合同チームでは残念ながら大会に出ることはできない。が、部員は、モチベーションを落とすことなく練習に励んだ。砂川を拠点に毎日のように練習し、技術も体もひとまわり大きくなった。7月末から4カ月の間で54試合を戦った。全道大会に出場する強豪校とも試合を重ね自信にもなった。

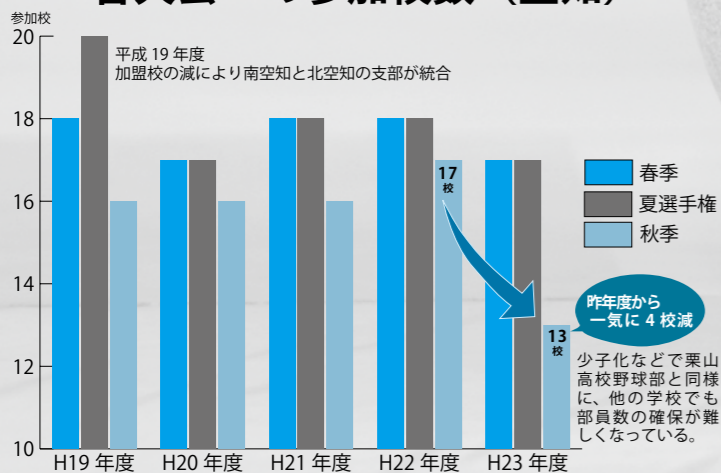
秋季大会には出られなかったが、野球を続けることができた。一時は目標を失いかけた部員たち。いまの彼らに目標を尋ねた。『人数が少なくても強いところをみせてやりたい』とすぐに答えが返ってきた。

しかし、これから部員が増える保証はない。秋の悔しい記憶が蘇る。

全校生徒数と野球部員数



各大会への参加校数(空知)



球児の 思い

野球を取り上げないでほしい

野球をやりたい。野球を取り上げないでほしい。彼には特別の思いがある。

野球を好きになったのは小学5年生。そのころから少人数の友達とキャッチボールをやり始めた。人数は少なかったけど、とても楽しい思い出だ。このころは、遊びのキャッチボールで満足だった。次第にちゃんとした野球がしたくなった。しかし、住んでいる継立地区には野球少年団がなかった。

継立中学校に進んでも野球をしたくない気持ちは変わらない。最後は大会に出て涙を流したい

高校野球最後の年を迎えた彼にも特別な思いがある。小学校4年生から栗山野球少年団「ロッキーズ」で野球を始めた。ポジションはキャッチャーだった。少年団時代には全道大会にも出場し、栗山中学校時代には、レギュラーにもなった。順風満帆だった。高校は、卒業した兄から野球部の話を聞かされていたので栗山高校を選んだ。今までと違い高校野球のレベルは高かった。同じポジションの先輩はとても上手だった。

萩野和剛さん(2年)

高校こそ地元で野球がやりたい。迷わず栗山高校を選んだ。ようやく、野球をする願いが叶った。いままでの野球経験といえばキャッチボール程度。思うようなプレーはできなかったが、とても充実していた。先輩や仲間たちも優しくしてくれた。

入学して1カ月、春の大会には背番号をもらうことができた。試合にはでれなかったが、背番号にはとても重みがあった。

昨年夏の大会が終わると部員は6人になってしまい、また野球をすることができなくなってしまった。小さいころから野球運にくくずく恵まれていないが、なんとか新入生を勧誘して、先輩たちと少しでも長く野球をやりたい。

幼いころからキャッチャーばかりだったが先輩にはかなわずサードにポジションが変わってしまった。

自分たちの代になれば、自分の好きなキャッチャーに戻れると信じていた。しかし、部員が6人しかいなくなり野球ができなくなるとわかった時はとても辛かった。

そんななか佐藤裕監督(現部長)が管内で部員が少ない高校に声をかけて合同チームを作ってくれた。目標を失いかけて、挫折しそうになったがやる気を取り戻せた。合同チームでの打率は4割を超えた。

今になって、これまでは野球をすることにとても恵まれていたんだと実感した。当たり前のように野球をしていたのでこんな苦しみを味わうことはないと思っていた。

今年、自分にとって最後の年だ。先輩たちが、夏の最後の大会で負けた時、涙を流していたことを思い出す。高校野球は特別だと思った。高校野球人生は長くてもあと4カ月しかない。最後の夏には何としても出たい。なんとか野球ができる人数が集まってほしい。大会にでて試合で負けて涙を流したい。

諏訪部竜平さん(3年)



片岡宣晃さん(2年)

三川中学校出身。小学2年生から野球を始める。とにかく今は、部員を集めて春から大会に出られるようにしたい。昨年の秋季大会に出られなかった悔しさを大会にぶつけたい。成績を残してチームに貢献したい。全道大会に出たい。



萩野和剛さん(2年)

継立中学校出身。栗山高校に入学して、念願だった野球を始める。これまでの野球経験はキャッチボール程度。合同チームで初めて試合に出た時はとても緊張した。絶対に部員を増やして先輩と少しでも長く野球をしたい。



吉田延明さん(2年)

岩見沢清園中学校出身。中学生から野球を始めた。一時期、何のために練習をするのかわからなくなった。6人になってから作られた合同チームで成長した。一生懸命、部員を勧誘して大会に出たい。先輩の足を引っ張らないようにしたい。



諏訪部竜平さん(3年)

栗山中学校出身。栗山野球少年団「ロッキーズ」で野球を始める。少年野球では全道大会の出場経験を持つ。部員が6人になった時は野球を辞めたくなるほど悔しかった。新入生にたくさん入部してもらって人数が多いチームに勝ちたい。



山森悠真さん(3年)

栗山中学校出身。6人になった時は、もう野球をやる意味がないと考えたが、合同チームを作ってもらったおかげで春の大会に向けて頑張る気持ちになった。部員は何が何でも集めるので不安はない。目指すは全道大会出場!



土山将史さん(3年)

南幌中学校出身。チームの主将を務める。小学2年生から野球をはじめ10年。中学では全道大会出場。昨年、秋季大会に出られなかった時には、野球をするのが嫌になってしまった。今は気持ちを切り替えて春の大会への出場を心待ちにしている。



栗山高校野球部を応援する会設立準備会 代表

渡部 晃一さん

渡部さんは、町や地域で一体感が深まっていくことに期待を膨らましていた。※会では、随時入会者を募集しています。入会を希望される方は☎7502まで

危機的状況に地域が動き出した

野球部の危機的状況に地域が動き出した。子どもたちを応援しようと『栗山高校野球部を応援する会』の設立に向け準備会が発足された。代表を務める渡部晃一さんに話を聞いた。

も町おこしの一環だと進んで協力してくれた。渡部さんには、会の設立をきっかけとして、町や地域に一体感が生まれている実感があるそう。また、この行動が町おこしにつながれば良いともいう。町や地域全体で応援する仕組みがあれば、部員も自然と集まるだろうし、野球に限らず町全体が明るくなるという。



設立までは回を重ねた準備会

渡部さんはさらに『部員が少なくなると悪循環になる』という。遠征に係る燃料費や、施設の使用料などは、部員が少なければ少ないほど一人ひとりに強いしわ寄せがいつてしまうからだ。経済的な負担が強くなると、当然部員が集まりにくくなる。部員が少な

各部活動部員数 H24.3.15 現在

部活名	部員
陸上部 (男子)	2人
〃 (女子)	3人
野球部	6人
サッカー部	12人
バスケットボール部 (男子)	5人
〃 (女子)	6人
バレー部 (男子)	H23年廃部
〃 (女子)	5人
バドミントン部 (男子)	4人
〃 (女子)	9人
テニス部 (男子)	7人
〃 (女子)	5人
卓球部	4人
弓道部 (男子)	5人
〃 (女子)	5人
剣道部	3人
柔道部	H23年廃部

それを地域でなんとか守ろうという気運が生まれた。

野球部だけの問題ではない

今回の問題は野球部だけの問題ではない。すべての体育系部活動が、同じような悩みを抱えている。部員数が年々減り続け、活動がままならない状態にある。昨年には、男子バレー部と柔道部が廃部へと追い込まれた。

野球部卒業生の父母らを中心に地域住民が動き出した。父母だけに限らず地域や企業・事業所で子どもたちの熱意を守っていくという試みだ。徐々にだが、賛同者が集まり、機運も高まっている。その姿は地域活動のお手本と言えるのではないだろうか。

頼もしくなった子どもの姿に涙

部員である萩野和剛さんのご両親に話を聞いた。

和剛さんは、ワールドベイスポールクラシックの中継を家族で見ることがきっかけで野球が好きになった。それから野球に関する本を読みあさり、親子でピッチャーの防御率や、打率の計算の仕方を勉強したこともあるそう。和剛さんは、小・中学校と野球をする環境に恵まれなかった。しかし、学校の先生や友人と一緒にやって野球の練習に付き合ってくれた。高校に行くと野球をするという目標を失わなかったのは、ま

わりにいた人に恵まれてたからだという。高校で念願だった野球をはじめると、頼りないと思っていた和剛さんが頼もしくなったそう。春・夏の大会では試合に出る機会がなかったが、試合中に和剛さんの姿を見たときに涙がでたという。萩野夫妻は部員が6人になった野球部の現状に『一球一球の大事さがわかる。今は部員たちにとって勉強の時代』と、前向きにとらえる。和剛さんもまた、今の現状について後ろ向きな発言をしない。しっかりと前を向いているからだろう。



野球部員 萩野和剛さんのご両親

萩野佳記さん里香さん

父母・地域の

思い

地元で野球をする選択肢がなくなる

栗山野球少年団「ロッキーズ」のコーチを務める錦古里和宣さんに話を聞いた。自身も現役で野球をする傍ら、地域で野球少年団の指導者として活動している。

錦古里さんが野球をはじめたのは栗山高校に入学してから。野球人生の原点ともいえる野球部の現状を寂しく思う一人だ。錦古里さんによると、指導している子どもたちの中にも、高校野球をやりたいと目標を持つ子がいるそう。錦古里さんは『子どもたちにとって地元で高校野球をする



子どもたちに指導をする錦古里さん

選択肢がなくなるのはあまりにもかわいそうだ』と言う。また、野球をやりたい子どもたちは、みんな町外へ行ってしまう、学校の生徒数が減ると危機感を持っている。4月には新一年生がたくさん入部してもらって、元気に野球をして欲しい、と願っていた。

野球少年団 栗山ロッキーズコーチ

錦古里 和宣さん

サケ稚魚放流会

瞳を閉じて想像してごらん
橋から川をのぞくと
私たちのサケがいる



雨煙別小学校
コカ・コーラ環境ハウス
に集合！

4月7日 土曜

※暖かい服装と長靴でお越しください！
参加無料 9時30分
【問い合わせ】(株)栗山青年会議所事務局(商工会議所内) ☎72-2345 担当：川合
【主催】(株)栗山青年会議所、ハサンベツ里山計画実行委員会
【共催】NPO 法人くりやま
【後援】栗山町教育委員会 **雨天決行！**

スケジュール

9:30 ~	スタート
10:00 ~	勉強会
11:00 ~	稚魚の放流
12:00	解散予定

くりやま老舗まつり

春の訪れを告げる恒例イベント「くりやま老舗まつり」が今年も14日、15日の日程で開催されます。

「蔵元」小林酒造株式会社と「日本一きびだんご」の谷田製菓株式会社。栗山を代表する二つの老舗が織りなすさまじい、毎年、春の陽気に誘われて数万人の来場者が見込まれる一大イベントです。

小林酒造では、搾りたて生酒・にぎり酒の無料試飲をはじめ、この日だけの限定酒の販売も行なわれ、栗山特産品や海産物などの屋台が所狭しとならびます。

谷田製菓では、きびだんごの試食のほか、きびだんご工場内部を開放しています。昔ながらの製法で「きびだんご」が出来上がるまでを見学することができます。

また、駅前通りのまちの駅「栗夢プラザ」では「本格手打ちそばまつり」が、さらには、天然温泉くりやままで吟醸酒の酒粕をつかった「吟醸酒風呂」も同時開催されています。

みなさんも、家族と友人と一緒に、栗山の春を楽しみながら、訪れてみてはいかがでしょうか？

4月14日(日) 10:00 ~ 16:00 / 15日(月) 10:00 ~ 15:00

第24回酒蔵まつり

会場：小林酒造(株) (錦3) ☎72-1001

- 国の有形文化財酒蔵群の一般開放
- 搾りたてにがり酒、大吟醸5種などの無料試飲
- 酒蔵味の屋台(海鮮焼き、キノコ汁、くりやまコロッケ、おむすび、おでんなど)
- 郷土芸能(角田獅子舞・よさこい共演など)
- 酒とそば「銀水庵」特別限定メニュー

本格手打ちそばまつり

会場：まちの駅「栗夢プラザ」(中央2) ☎73-5515

- 手打ちそばの販売(お持ち帰り可)
- 北の錦試飲会
- まちの駅オリジナルおみやげセットの販売

ふるさと道あんないスタッフ募集！

くりやま老舗まつり期間中、JR栗山駅や無料巡回バスの中で来場者にイベントや栗山町内の案内を担当する応援スタッフを募集します。

- 活動日時
4月14日(日) 9:00 ~ 17:00
4月15日(月) 9:00 ~ 16:00
※ご都合のよい時間帯のみの活動でも結構です。
※前日の13日(金) 16:00 から1時間ほどの事前打ち合わせにも参加いただけます。
- 時給
710円
- 募集要件
年齢18歳以上の方(高校生不可)
- 申込先・問い合わせ
谷田製菓(株) ☎72-1234

第14回きびだんごまつり

会場：谷田製菓(株) (錦3) ☎72-1234

- 工場見学、昔ながらのきびだんご作り実演
- きびだんごの試食
- 栗山銘菓の販売

「吟醸酒風呂」

- 小林酒造のモロミ(酒粕)を活かした酒風呂

会場：天然温泉くりやま(湯地) ☎72-1123

期間：4月13日(金)~15日(日) 3日間

時間：7:00~22:00

入浴料：大人550円 小学生250円

無料巡回バスを運行します！

バス発着場

- JR栗山駅
- 駅前商店街 まちの駅「栗夢プラザ」前(中央3)
- ホテルパラダイスヒルズ(湯地)
- 栗山公園(桜丘2)

※「JR栗山駅」から酒蔵まつり・きびだんごまつり会場までは徒歩となります。

こんにちは！ 私たちは栗山青年会議所です。

4月7日！サケの稚魚放流会です

先月号までは「健康のコラム」で執筆し、うって変わって今回は「JCのコラム」で再登場となりました(有くすりのえびなの蛸名勇人です。そろそろ憶えていただけただでしょうか？さて、いよいよ4月7日は、お待ち待った「サケの稚魚放流会」です。我々、栗山JCメンバー一同も着々と準備を進めています。



(左が私です)

一方、里親の皆さんに育てていただいているサケの稚魚も、放流に向けて順調に大きくなってきています。栗山JCが5年前から行っている「サケの稚魚放流」にはいろいろな想いがあります。

もちろん、サケが帰ってくるための「自然環境づくり」を子どもたちに知ってもらうというとても大切なことですが、実際に



(毎年、多くの方が参加してくれます！ぜひ皆さんも)

稚魚の放流を体験することにより、さまざまな「感性」を子どもたちに育んでもらいたいと想っているのです。

自然に対する「感性」は、ものごとくがついてから中学生くらいまでの間に磨かれるといわれています。自然の中の充実した体験は終生忘れないものがあり、そこで自然に対する「何か」を感じてもらえれば、これからの成長の糧となることと思います。



(帰ってきてね！と願いを込めて)

「母川回帰」という言葉があります。サケは放流された故郷の川を忘れて4年を経て帰ってくるという意味ですが、「サケの稚魚放流」とおして子どもたちにも故郷への意識を育んでもらい、大人になっても「郷土愛」というものを持ち続けてもらいたいのです。

当日は、お友達を誘って一人でも多くの人に参加していただきたいと思えます。我々の伝えたい想いが、この故郷の自然と子どもたちの明るい未来につながると信じて…

帰ってこようよっ！！

